

<No.10号外> 向陽学園に「新しい教育の風」!!



向陽学園では、昭和54年に「衛生看護専攻科」が新設され、昭和56年には、専修学校「長崎リハビリテーション学院」が開設されたんだ。(H)



昭和54年「衛生看護専攻科」設置

- 昭和42年 衛生看護科を設置
 - 昭和45年 衛生看護科・保育科実習棟新築
 - 昭和53年 衛生看護専攻科校舎新築落成(赤佐古町)
 - 昭和54年 「衛生看護専攻科」設置
 - 平成16年 西三城町に校舎新築移転
 - 平成21年 看護専攻科と改称し、5年一貫教育となる
- ※平成30年3月現在専攻科卒業生1,683名

衛生看護科は、平成30年度開設51周年目です。(H)

今のベルファムの場所だよ。(H)



昭和45年実習棟新築(現第5校舎)



昭和53年校舎新築(ハピリスの丘)



平成16年校舎新築(現本館)

「ハピリスの丘」 専攻科の校舎が在る高台を「ハピリスの丘」と名付けました。「ハピリス」とはラテン語で「存在する」という意味だそうです。～中略～「看護することが大切なのではなく、よく看護することが大切」～中略～「看護とは」「看護婦の原点とは」その解決は「アイデア」を追求すること。その「アイデア」が「存在」する場所という意味で「ハピリスの丘」と呼びたいと思います。ここで言う「アイデア」とは「ものそのものの本当の姿」といった意味です。

向陽高校副校長: 烏山英也(昭和56年8月発行「ときわだい」2号より抜粋)



昭和54年4月「第1回入学生」※全員国家試験合格



開校記念特別講演での烏山英也氏

専攻科を置くに当たりいくつかの問題があった。全国で数百の准看護婦養成校があったが、引き受けの実習病院が無くて困っていた。そこで横内寛院長先生(国立長崎中央病院)を訪ね、初対面であったがお願いして実現した。ここで向陽学園の一つの方向性が決まった。(S63, 烏山英也氏手記より)

昭和56年 専修学校「長崎リハビリテーション学院」開設(九州で2番目の開設)

昭和56年 専修学校「長崎リハビリテーション学院」設立

安中 正哉 初代学院長就任

「理学療法学科」設置(昼間部定員30名)

平成 3年 内藤 芳篤 第2代学院長就任

「言語療法学科」設置(定員25名)

(九州で最初の設置)

平成 5年 村島 二郎 第3代学院長就任

平成16年 「理学療法学科」二部設置(定員40名)

平成17年 天満 和人 第4代学院長就任

平成18年 「作業療法学科」設置(定員40名)、新校舎(現東校舎)落成

平成20年 「C.L.フォンス」(図書館、カフェテリア)完成

平成27年 本川 哲 第5代学院長就任

「言語療法学科」西館(改築後)へ移動

平成29年 「理学療法学科」二部を3年課程に変更、Semester制廃止

※平成30年3月現在卒業生2,327名

平成20年C.L.フォンス落成

当初は、「ハビリスの丘」から「本館」まで道路がつながってたんだよ。(H)



昭和56年本館新築落成



平成3年本館3階増築落成



現在の校舎全景

学院開設にあたり、アメリカの理学療法を視察した。「理学療法と言語療法どちらが大切か」と質問した。「どちらも大切だ」と答えが返ってきた。日本ではまだ「言語療法」は法制化されて無い。私自身、十数年前くも膜下出血で倒れ言葉が出なかった。

その時は絶望感が脳裏を走った記憶がある。今回、学園に長崎病理学研究所を開設し、言語障害研修講座を開講した。この研修が言語障害の人達に差し伸べる小さな救いの手になれば幸いである。

向陽学園理事長: 烏山英也 (昭和59年8月発行「ときわだい」5号より抜粋)



開校式での烏山英也氏

学院の設立準備の難しさは専攻科の比ではなかった。時を同じくして長崎大学の医学部整形外科を中心として「理学療法士」養成を含む医療短大の準備がなされていた。この種の学校は、特に整形外科の協力が必要である。向陽学園の方が成功すると長崎大学の方が認可されないのではと考えられ、実習先が決まらなかった。しかしここでも横内先生の陰の応援があり開設が実現した。

(S63, 烏山英也氏手記より)

最初は、県内実習病院がなく県外で実習していたそうだよ。(H)

新しい「学科」や「学校」の開設には、大変な苦労があったんですね。

「信念と情熱」、そして「人との出会い」の大切さを感じました。私達も頑張らないと！(M)



※向陽高校HPがご覧いただけます。



時代の先を読み研究する姿勢と行動力がすごいね。次号は「烏山武」初代理事長の功績について紹介します。(H)

